

## 第69回 青雲塾 報告

青雲塾担当 松井繁幸（第23期）  
西尾公一（第25期）

<http://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/list.html>

1. 日時 2021年1月23日（土） 午後2時00分～3時15分
2. 場所 大阪大学中之島センター 講義室602
3. 講師 高橋 慶吉 先生（大阪大学大学院 法学研究科 准教授）
4. 演題 『コロナ・パンデミックとアメリカ政治』
5. 講師のプロフィール

2000年3月 大阪大学法学部卒業（青雲会48期）  
2002年3月 大阪大学法学研究科博士前期課程修了  
2005年5月 ペンシルヴァニア大学歴史学部大学院修士課程修了。

その後、助手、助教を経て、

2010年4月から現職

（研究内容・専門分野）アメリカ外交史

（最近の主な著書）

・『米国と戦後東アジア秩序－中国大国化構想の挫折』有斐閣，2019年12月

### レジュメ

1. アメリカの危機対応のパターン
2. アメリカの分裂
3. 州政府主導の危機対応
4. コロナ禍に対する政治の責任

### 6. 講師からひと言

2019年8月から1年間、アメリカに在外研究に行っておりました。滞在先はヴァージニア州アーリントン。そこでの生活が2020年3月、コロナ・パンデミックにより一変いたします。今回の青雲塾では、現地での経験談を織り交ぜながら、コロナ危機をめぐるアメリカ政治についてお話したいと思っております。これまでアメリカは、大統領の強力なリーダーシップのもと、国民がそれなりに団結することで、いくつもの国家的危機を乗り越えてきました。しかし、今回のコロナ危機では従来見られた危機対応のパターンが見られません。アメリカ社会はリベラルと保守の間で激しく分裂したまま、トランプ大統領はそれをまとめる努力をせず、危機対応の多くを州に任せます。議会民主党も党派的行動に終始し、その結果が20万人を超える死者です。

ジョンズ・ホプキンス大学が2019年にまとめたレポートは、アメリカをパンデミックに対する備えがもっとも充実している国家として評価しておりました。その国家が、コロナ・パンデミックにおいて世界最大の死者を抱えるまでになってしまっております。今回の青雲塾では、そのことに対する政治の責任について考えます。

（開催後、先生から次のメッセージをいただきました）

今回のお話はいつか文書にしたいと考えております。

皆さんからいただきましたコメントや質問はできる限り、その将来の文書に反映させたいと思っております。

コロナ禍で、天気もすぐれない中、ご参加いただき、ありがとうございました。

### 7. 青雲塾担当から

「高橋先生には、2017年11月の第58回 青雲塾で講師をお願いして以来、2回目の登板をお引き受けいただきました。

今回は、アメリカのバイデン大統領の就任式が1月20日が行なわれ、各種メディアが大きく取り上げた直後、しかも、アメリカをはじめ、コロナが世界で猛威を奮っている最中。今、最もタイムリーな話題を提供していただきました。ヴァージニア州の知事からの緊急事態宣言や規制緩和など、貴重な体験を交えてアメリカの様子を解説していただきました。アメリカの深刻な政治的分裂状況を改めて突きつけられた気がします。

しかし、同時に、ホワイトハウスで執務を開始したバイデン大統領は、さっそく、トランプ政権下で離脱した地球温暖化対策の国際的な枠組み「パリ協定」に復帰するための文書に署名し、さらにトランプ前政権が打ち出していた、WHOからの脱退の撤回を命じる大統領令にも署名と、政権が交代した当日から、前政権からの政策の転換をアピールしました。そんな風に、選挙でダイナミックに民意が反映されていく様子を見てみると、アメリカがうらやましくて仕方がありません。

高橋先生のお話の後、ご参加の皆さんから活発な質問があり、関心の高さを強く感じました。

なお、茶話会は時節柄、今回、中止と致しました。」（松井）

「日本のマスコミからは、なかなか得られなかった現地の情報のお陰で、コロナとアメリカ政治について、良く理解できました。ありがとうございました😊。」（西尾）

第69回 青雲塾 (2021.01.23) 写真

